



# かつうら

勝浦町勢要覧

Town Profile

扉を開けば「一期一会」の出会いがある



Welcome to Katsura



Katsura

●勝浦町ホームページ

<http://www.town.katsuura.lg.jp>



●勝浦町役場 公式Twitter

[https://twitter.com/katsuura\\_soumu](https://twitter.com/katsuura_soumu)





「おもっしよいこと  
まけまけいっぱい  
かつうら」



## 扉を開けたらときめきがいっぱい

町勢要覧発刊にあたって

昭和30年3月、旧横瀬町と旧生比奈村の合併により「勝浦町」が誕生してから65年を迎えました。

緑深き四方の山々、山裾に開けたみかんの段々畑、平野に広がる田園風景、そして、中央を流れる清流勝浦川が、我がまち勝浦の豊かな自然を表現しています。

県都徳島市をはじめとして小松島市、阿南市から、それぞれに車で30分程の位置にあり、通勤や生活の便利さを兼ね備えたほどほどの田舎です。

温暖な気候と豊かな自然に包まれて暮らす町民の多くは、穏やかでのんびりとした性格の上に、お節介で世話好きな気質も併せ持っています。

まちの特徴は、町民が非常に生き生きと活発で、全国に誇れる「元祖ビッグひな祭り」をはじめとした数々のイベントを、それぞれ住民団体が運営しています。

2月からビッグひな祭り、3月末には勝浦さくら祭り、5月の武者人形祭り、8月には2つある商店街の夏祭り、各神社の秋祭りと花火大会、11月には元氣市などなど。

更に、平成30年には、恐竜化石を含むボンベッド（化石含有層）が発見され、子供も大人も魅了するキラコンテナツとして活用し「恐竜のまち勝浦」を目指しています。

「おもっしよいこと、まけまけいっぱい（面白いこと、溢れるほどたくさん）」用意して、勝浦町でお待ちしております。

勝浦町長／野上 武典



## 「交流の扉を開く」

さまざまな扉を開いて、勝浦町の奥深くへ

清流勝浦川の中流域で、

四方を山に囲まれた盆地帯にある勝浦町。

穏やかな気候で、川や里山の特産品に恵まれ、

豊かな伝統文化を残す勝浦町は、

徳島市など、都市圏からも至近距離にあります。

現在、「身土不二」といった言葉は、

都市に住む生活に意識的な層の人たちの間で使われ、

短期滞在から定住まで、田舎暮らしに憧れる人たちが増えています。

そうした人たちにとって、勝浦町は都市の利便性も叶えながら、

自然や昔ながらの文化、

人のつながりを実感することができる

理想的な環境だということが

言えるのではないのでしょうか。





# 勝浦町勢要覧

## CONTENTS

- おもっしよいこと まけまけいっぱい かつら ..... 1
- Profile / 目次 ..... 2,3
- 安らぎの里へ ..... 4
  - 伝承の扉 ..... 6
  - 収穫の扉 ..... 8
  - 躍動の扉 ..... 10
- コラム 伝統を今に 勝浦座 ..... 12
- リフレッシュ・イン勝浦 ..... 14
  - 川に遊べば、人は、すぐ童心に戻る ..... 16
  - 「また来たい」より、「また逢いたい」と  
言ってもらえるように ..... 18
  - 歴史をたどる、文化をたどる ..... 20
  - 青空のもと出かけてみよう(勝浦イラストマップ) ..... 22
- コラム 山村に根づいた俳諧文学 ..... 24
- 勝浦のあゆみ ..... 26~30
- 勝浦は恐竜のふるさと ..... 31
- 100年続く勝浦町を目指して
  - 産業振興・社会基盤 ..... 32
  - 教育・文化・子育て ..... 33
  - 健康・福祉 ..... 34
  - 環境保全・地域安全 ..... 35
  - 観光・定住促進 ..... 36
  - 議会 ..... 37



## Profile

### ■町民憲章

わたくしたちは、勝浦町民としての誇りをもち、明るく住みよい、さらに未来へ伸びゆくまちづくりを目指して、この町民憲章を定めます。

- 一 郷土を愛し、自然を生かした、**美しいまち**をつくります。
- 一 お互いを尊重し、助けあい、**ぬくもりのあるまち**をつくります。
- 一 健やかな心とからだを養い、**生きがいのあるまち**をつくります。
- 一 生涯を通して学びあい、教養を高め、**文化のかおるまち**をつくります。
- 一 喜びをもって仕事に励み、力をあわせ、**豊かなまち**をつくります。(平成9年1月1日制定)



### ■位置・地勢

勝浦町は徳島市から南西20kmの距離にあって、面積69.83km<sup>2</sup>、人口約5,200人の美しい風景と緑豊かな自然に恵まれた気候温暖なまちです。古くから阿波みかん栽培発祥(文政年間)の地として知られ、東西に流れる勝浦川兩岸の山腹に広がる栽培地は、徳島県の主要産地として、その名声を内外に博しています。

### ■町章



特産みかんと、町の中央を貫流する勝浦川を図案化したもので、横の三本線は勝浦川を表し、真ん中はみかんの若芽、円形全体がみかんを表しています。

### ■町花

(コスモス)



### ■町木

(みかん)



町村合併30周年を記念して指定されました。「勝浦町の花」については、各家庭で手軽に栽培でき、なじみのある花ということで、秋には勝浦川の河原に広く咲くコスモスが指定されました。また、「勝浦町の木」には勝浦町を代表するにふさわしい木としてみかんが指定されました。

勝浦町 〒771-4395 徳島県勝浦郡勝浦町大字久国字久保田3 TEL 0885-42-2511(代) FAX 0885-42-3028

ホームページ <http://www.town.katsuura.lg.jp>

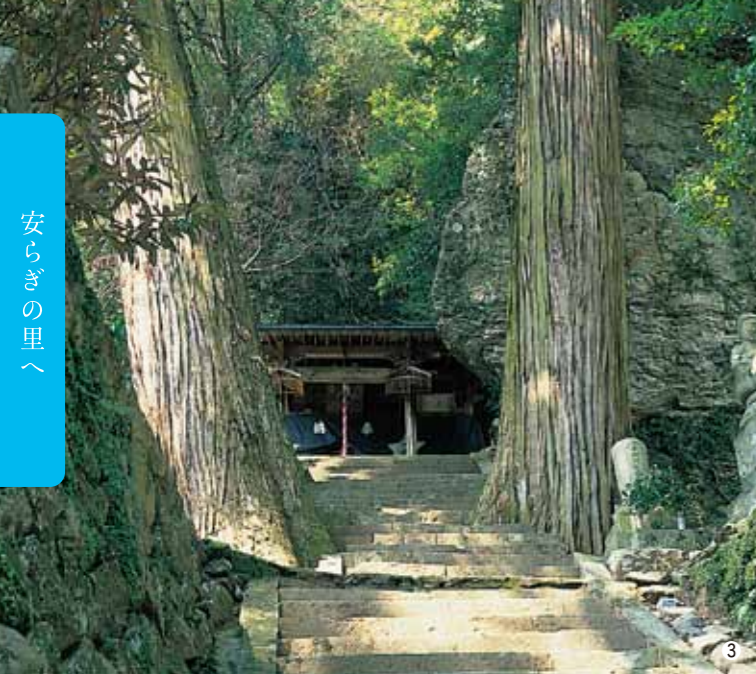


# 安らぎの里へ

帰ろう。  
人に、自然に、  
ふるさとに。

森の奥深く、溪谷に面した大銀杏の下に五十三体の石仏が円錐状に安置されている。かつて弘法大師はこの場所で、金剛界曼陀羅の諸仏が現れ光輝くのを見たという。伝説の真偽は別として、石仏たちのやさしげな表情を見てると何だかほっとする。遠いふるさとに帰ってきたような安堵感。そう、またひとつ、私にふるさとができた。





# 伝承の扉

伝説、そして祈り…。この地に生きた里人の想いが今も息づく。



- ①裏見の滝
- ②鶴林寺山門
- ③星の岩屋
- ④鶴林寺の丁石
- ⑤胎藏寺の首なし地藏
- ⑥第20番札所霊場  
鶴林寺(南より)
- ⑦生名水呑の湧き水
- ⑧お遍路さん

**勝** 浦の面白さは自然の中に溶け込んだ様々な祈りの場所があることです。

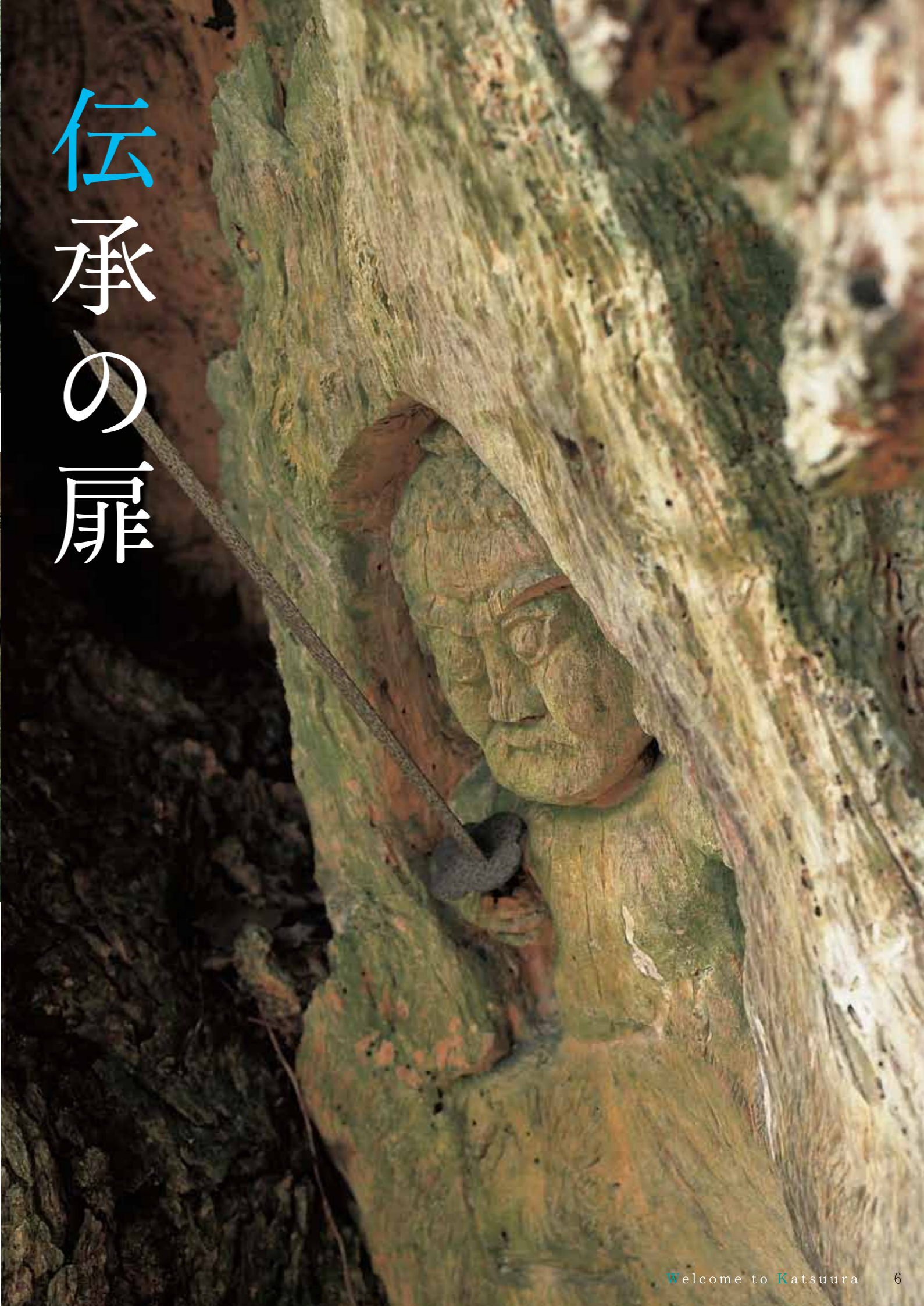
四国霊場第十九番札所立江寺の奥の院は「星の岩屋」と呼ばれています。その昔、悪星が人々に害をなしていたので、この地を訪れていた弘法大師が悪星を岩屋に封じ込めたというのがその地名の由来。その境内には高さ約二十メートル、周囲四メートル、樹齢四百五十年と推定されるクスノキの巨木があり、中は空洞になっていて、不動明王像が彫られています。

また、付近には「裏見の滝」と呼ばれる滝があります。この滝の裏側は空洞になっているので、滝の流れを裏側から見ることができ、行者でなくても心清められる感じがします。

四国霊場第二十番札所の鶴林寺は、海拔五百五十メートルにある真言密教の道場であり、かつてその急な参道は、二に焼山(焼山寺)、二にお鶴(鶴林寺)、三に太龍(太龍寺)と言われたほどお遍路さんを嘆かせた難所でした。そんなお遍路さんが少しでも楽になれるようにと願って参道に配されているのが「丁石」と呼ばれる案内標識です。室町期に数基寄進されたものらしく、お山まで後何丁と上る人を励ますようにたたずむ姿に、昔の人のやさしい心づかいを感じるすることができます。また参道傍らには清水が「こんこんと湧きだし枯れたことがない」と言われる「生名水呑の湧き水」があります。弘法大師が杖で突くと湧き出したという伝説があります。水呑大師が祀られています。

そのほか、森の奥深くに五十三体の「仏石」が静かにたたずんでいたりと、首の無い地藏があったりと、様々な祈りの場所に出逢うことができます。

また平成二十二年には、鶴林寺道の水呑大師から鶴林寺までの約三キロメートルと、鶴林寺から太龍寺へ向かう町境までの二四キロメートルが、四国遍路道で初めて国の指定史跡に登録されています。







# 収穫の扉

先人たちが育てた山河は、この地に生きる我々に豊かな恵みを与えてくれる。



**町**の中央を流れる勝浦川は、剣山系に源を抜き、東へ流れて徳島市と小松島市の間を抜け、紀伊水道に注いでいます。その豊かな清流にはアユが舞い、シーズンともなると太公望たちがさおを並べます。

勝浦川沿いに広がった平野は、かつては美味しい米の産地であり、その水質が清らかであることから酒造にも適しており、江戸時代には酒造りで知られた家々も多数存在したほどでした。

勝浦町は阿波みかん発祥の地として知られ、かつて「みかんが光るすばらしい黄金郷の見出しで新聞で紹介された全国有数のみかん産地です。本格的なみかんづくりが始まったのは大正末期から昭和期にかけてであり、昭和三十年代には全盛期を迎えました。

今日では消費者の変化などから消費量が減る傾向にあり「高齢化による生産力の低下」「果実品種のバラツキ」「市場競争の激化」など、勝浦みかんを取り巻く状況は大変厳しいものがあります。関係機関と連携を図り、消費者が求める高品質なみかんをつくり、販路拡大や統一規格の活用など、勝浦みかんのブランド化を進めることで乗り切ろうとしています。

また、近年では野菜、花きなどの施設園芸に切り組む農家も増加し、複合経営が定着してきています。

- ① 芋掘り
- ② みかん狩り
- ③ みかんの収穫
- ④ よってネ市売場





安らぎの里へ



祭、イベントetc…いろんな新旧とりまぜておまつり好きの血は激る。



# 躍動の扉

**勝** 浦町には様々なイベントがありますが、何と言っても豪華絢爛なのが「ビッグひな祭り」。

日本に春を呼ぶ「ビッグひな祭り」は、勝浦町の活性化と人形文化の保存伝承、都市との交流などを目的に、昭和六十三年の春に始まったもので、毎年二月中旬から四月上旬まで開催され、会場の人形文化交流館には、中央にそびえたつ高さ約八m「百段のひな壇」を筆頭に、全国から寄せられた約三万体の雛人形が、豪華絢爛に飾られています。場内の舞台では、伝統的な人形浄瑠璃を約二百年間伝承している「勝浦座」の公演をはじめ、歌や踊りなどの芸能が、毎週土・日曜日を中心に上演されます。

また期間中、ひな祭りを盛り上げようと、坂本地区では、「ふれあいの里さかもと」の体育館に「野山に遊ぶおひな様」等それぞれのグループが思い思いのテーマで楽しく飾り付けをした「おひな様の奥座敷」や「坂本おひな街道」でのひな飾りも見どころです。さらに、近くの神社で挙式した新郎新婦がひな街道を初歩きする「ヒナコン」も行われています。他にも、西岡商店街や勝浦中央商店街の住民の協力により、軒先にひな飾りが出現し、町全体がひな祭り一色となり、訪れる人々に感動を与えています。

ひな人形を通じた交流は、全国に広がり、千葉県勝浦市のビッグひな祭りをはじめ、勝浦から送ったひな人形で同時開催する市町村も増え全国的に大反響を呼んでいます。

町内には、「勝浦さくら祭り」「武者人形まつり」「さかもとあかりの里、山田・西岡ウインターイルミネーション」など様々なイベントがあり、町は一年中、活気にあふれています。

- ① さかもとあかりの里
- ② 元祖阿波かつらビッグひな祭り
- ③ 山西イルミネーション
- ④ 勝浦さくら祭り



# 伝統を、今に 阿波人形 浄瑠璃 勝浦座



かつて極めて庶民的な楽しみとして全国的隆盛をみた人形浄瑠璃。中でも阿波の人形浄瑠璃は藩主の保護と藍商人たちに支えられ、江戸時代後期には諸国を巡業して回るほどに成長した。最盛期、天保年間の阿波の国には五十を越える人形座と約三百八十か所もの農村舞台があったという。この阿波人形浄瑠璃は、平成十一年十二月、国の重要無形民俗文化財に指定される。人々に愛されたこの郷土芸能は、この勝浦の地で、今も絶えることなく受け継がれている。

で練習に励み、祭礼の当日には「式三番叟（しきさんばんそう）」「阿波鳴あわなる」その他の外題を奉納上演しました。観客も地区民総出で、親戚知人も招き、酒食を共にして終日夜を徹して楽しんでいくことです。

**長年の活動が認められ  
国立文楽劇場へ招待される**  
その後勝浦座は毎年県内外の公演を重ね、昭和四十九年九月には町指定無形文化財となり、昭和五十一年十月に東京国立劇場、平成八年三月には大阪国立文楽劇場、平成十四年からは町内にある今山農村舞台で、平成十九年一月にも東京国立劇場で公

## 庶民の極めてポピュラーな 娯楽であった人形浄瑠璃。

江戸時代より大正期にかけて、全国的に人気を博した人形浄瑠璃。その起源は室町後期に起こった浄瑠璃節が、江戸初期に三味線と提携して、人形芝居を上演するようになって成立したものだと言われています。作者に近松門左衛門、太夫に竹本義太夫などが出て、演劇の様式として確立し、全国に広まっていきました。

勝浦町でも江戸時代末期には行われていたようですが、特に明治・大正期にかけて盛んでした。当時浄瑠璃を語ることは、町の羽織袴階級の社交的資格であつたらしく、上手も下手も数人集まっては声を競ったということです。また、一般庶民が仕事の片手間に語るのも普通のことでした。それほど階層の別なく人々の心に浸透していたようです。

人形座も江戸時代末期から棚野と久国の二か所に座があつて興業が行われていましたが、いつの頃から棚野の人形座は解散してしまい、久国座だけが残りしました。

久国座は大宮八幡神社の祭礼に興行するのが常で、青年団が運営を担当していました。隆盛期には一か月前前から青年団や地域の有志が神社の舞台で夜遅くま



## 名声高まる久国人形座 しかし不幸な出来事が。

人形の遣い方は、当時一流の人形座であつた「淡路源之丞」を始めとする様々な座から講師を招き、指導を受けています。その結果名手も出て、久国人形座の名も高まっていきました。

しかし残念なことに昭和六年久国にあつた舞台が全焼し、そこに保管していた人形および諸道具一切を消失してしまいました。その結果再興できないまま、満州事変や太平洋戦争の時代に突入り、人形どころではなくなり、自然的な解散となつてしまいました。

ただ「式三番叟」に使う人形だけはそのままに消失を免れたので、数人によつてかるうじて続けられ、昭和二十一年に久国人形座に入つていた十人の手により再興が図られ、その後「勝浦座」と改められて現在も続いています。

演し、大阪府能勢町の浄瑠璃と勝浦座の人形のジョイント公演は、平成五年から途切れることなく現在も続いております。またその活動は海外へと広がり、平成元年、四年、九年の三回アメリカへ、平成十五年三月にスイス、平成二十一年五月にオーストリア、平成三十一年九月には、フランス・パリに招かれています。

また、後継者の育成として、昭和三十七年に現在の小松島西高等学校勝浦校に民芸部が創立され、その指導を行うとともに、平成十八年からは町内の小・中学生に人形遣いの指導も行つております。





# Refresh in Katsuura

## リフレッシュ・イン勝浦

どこか遠くへ行ってみたいと思うことがある。  
何かに出逢いたいと思うことがある。  
美しい自然に触れたい、悠久の歴史に触れたい、  
人々の暮らしに触れたい、そして誰かに出逢いたい。  
そんな気持ちになったら、訪れて欲しいまち、  
それが我がまち勝浦。  
誰もが知らず知らず溶け込んでしまっ、  
そんな安らぎがあるまちです。

### 道の駅

#### 「ひなの里かつうら」名称の由来

県道徳島上那賀線沿いに平成23年3月にオープンした、徳島県15番目の「道の駅」。毎年春に行われる町内最大のイベント「ビッグひな祭り」にちなんで名付けられたこの駅は、特産品販売所、観光案内所、また喫茶、飲食スペースを設けた、地域情報の発信・交流拠点です。開発するオリジナル商品の数は、徳島県随一。

#### 「ひなの里かつうら」名称の由来

勝浦町では、毎年2月下旬から4月上旬まで、約3万体的ひな人形を飾る「ビッグひな祭り」を開催しています。今や日本に春を告げるイベントに発展したことから、ひな人形が勝浦の代名詞ともなっています。そんなたくさんのひな人形のように、大勢の人たちがほっこりした笑顔で集う道の駅であってほしいとの、町民の思いが込められています。

### よってネ市

J A 東とくしまの経営する県下最大規模の産直市場。町内で採れた新鮮な野菜や果物のほか、手造りの惣菜やお寿司などもたくさん販売されています。土日には1,000名以上のお客様で賑わう、まさしく町の台所です。

### 勝浦町地域活性化センター 「レヴィータかつうら」

道の駅ひなの里かつうら、J A 東とくしまよってネ市に隣接し、「観光・交流又は移住についての業務」、「地域のコミュニティ活動の振興業務」及び「地域資源を活かし町を活性化するための業務」を行う施設として、平成29年8月にオープンしました。  
施設には多目的スペース、オープンキッチンのほか交流スペースや展示情報コーナーがあり、町内各種団体の会議やイベント等と多目的に利用されています。







# 川に遊べば、人は、 すぐ童心に帰る

川辺に立つて、流れの中をのぞいてみる。清らかな水は川底をやさしくゆらし、時折鮎が軽やかに視界を横切る。誘惑に駆られ、ズボンの裾を上げ、靴下を脱いで、水の中に入ってみる。冷たさが肌に心地よい。何とも言えない開放感。やっぱりこれが基本的な川の楽しみ方。清流、勝浦川を眺める楽しさもさることながら、体験できる楽しさもいっぱい。四季を通じてイベントも盛りだくさん。この川で遊べば、人は、すぐ童心に帰る。

**剣** 山系に源を発し、町の中央を流れる勝浦川。その水は清流で、鯉、うなぎ、アユ、鮎などの魚も多く、昔は川魚漁師さんもいっぱいいたということ。今も鮎釣りのシーズンともなると釣り人たちがどっと押しかけます。でも、釣りもいいけど何となく勝浦川の良さはその美しさ。春の川辺は鮮やかな黄色のからし菜の花に覆われ、それが秋にはコスモスの白やピンクに

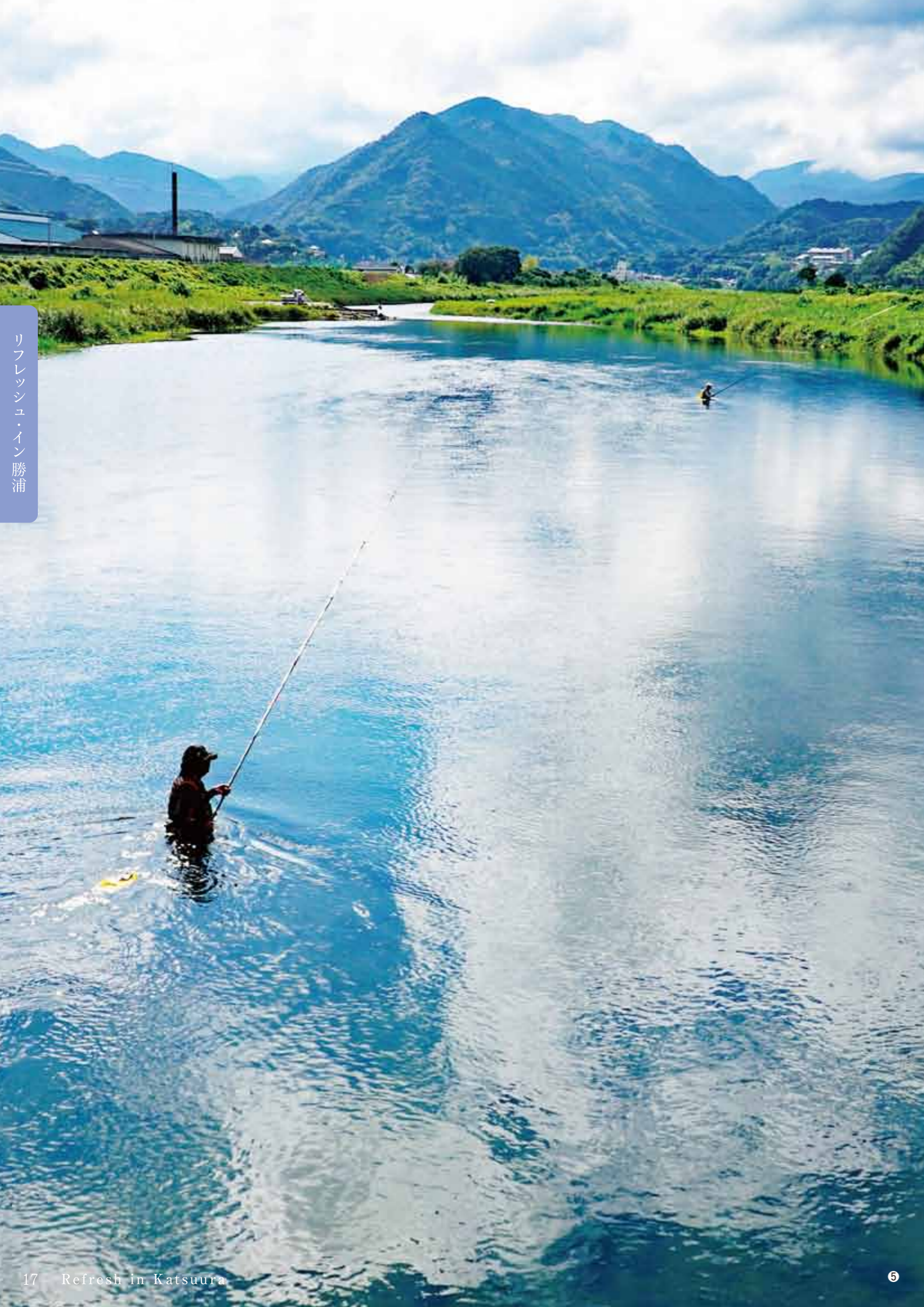
彩りを変えます。川に親しめる「星合運動公園」も整備され、ちよつとひと休みするには快適な空間になっています。そして川をさかのぼればやがて勝浦川の支流である立川深谷へ。うっそうと繁る木々の合間を縫って清らかな水が流れ、秋ともなれば、美しい紅葉が目を楽しませてくれます。付近には鳥居ケヤキ、シルリア紀紅石灰岩、夫婦淵など見どころもいっぱい。



**そ**んな川のイベントと言え、何と云っても春の「勝浦さくら祭り」です。「勝浦さくら祭り」は、生名谷川沿いの生名ロマン街道に咲く約四百五十本の桜にボンボリを吊るし、桜を眺めながらの舟下りや人力車、トロッコ、産直市など楽しいイベントが満載です。またライトアップされた夜桜は絶景です。そのほか、秋には町内各所で花火大会も行われ、勝浦川での楽しみは四季を通じて盛りだくさん。また来てみたい、必ずそんな気持ちになる川です。

- ① 勝浦川
- ② しんぞく狩り
- ③ 鮎のつかみ取り
- ④ 勝浦町観光写真コンクール2018 優秀作品「もう一つの世界」 shino photo
- ⑤ 勝浦町観光写真コンクール2016 入選作品「勝浦川の夏」三原弘枝

リフレッシュ・イン 勝浦





「また来たい」より  
「また逢いたい」と  
言ってもらえるように…



澄みきった空気の中にひっそりと息づく植物や生き物たち。  
あるがままの自然のなかでゆったりと流れる時間を楽しむ。  
童心に帰りのんびりと野山や川で遊ぶ。  
ここでは、山のおじさんや、おばさん達が先生。  
もと、遊びの達人たちが楽しい田舎の暮らしや楽しみを伝授いたします。



2

**山** 間部の廃校舎を活用し平成十四年三月にオープンした農村体験型宿泊施設「ふれあいの里さかもと」は、地域住民による「坂本グリーンツーリズム運営委員会」が運営にあたっており、地元の人達がインストラクターとなり十種類以上のメニューで田舎体験を実施しています。

果樹オーナー制度や坂本農業みかん組などの農業体験。田舎こんやく作りや田舎豆腐作り、うどん打ちなどの農産物加工体験。地域の自然を生かした山菜採りや、じんぞく狩り、テラリウム作りなどの体験メニューがあります。

田舎体験には、町内外の小中学校や高校からの体験学習をはじめ学童保育からお年寄りのグループまで県外からの方も含め様々な方の参加があり、田舎の暮らしや伝統的な「食」の体験を通じ、それらの素晴らしさを実感していただいています。

また、「ふれあいの里さかもと」の食堂では、訪れた人たちを地元で採れた野菜、山菜、果物、川魚など旬の食材を用いて地域のお母さん方が作る田舎料理でもてなしており、素朴な味わいが大変好評です。

都会にはない田舎の暮らしを体験し料理を味わってもらうことにより、それらの素晴らしさを実感してもらい、繰り返し訪れてもらうことにより、交流を促進していきます。

平成二十六年二月には、「坂本グリーンツーリズム運営委員会」が、



1



5



4



3

十年間以上に渡る廃校を拠点とした農村体験などの都市との交流事業をはじめとした取組みの、継続性・発展性、また、それらにより地域の自信、活性化につながったことなどを評価していただき「平成二十五年度地域づくり総務大臣表彰団体表彰」を受賞いたしました。

平成十四年春、ひと粒の種をまきました。私たちがまいた種が、芽を出しつつ成長しはじめています。

太陽の光、酸素、土、豊かな自然の恵みに感動しながら農村体験を通じて、人と人の輪も大きな美りになるように、これからも大事に育てていきたいと思っています。

「山から学ぶ自然の学校」、農業体験や農産物加工体験、自然体験などをご用意し、皆様のお越しをお待ちしています。

平成二十六年十二月、同じ坂本地区に勝浦町お試し定住施設「田舎トライアルハウス坂本家」をオープンいたしました。坂本家は、商家を改装した移住希望者のためのシェアハウスです。勝浦町の最奥、坂本地区で人と自然に触れながら、農業をはじめとした田舎体験も楽しんでいただけます。

町内には病院にスーパー、コンビニもある、暮らしに便利な、ほどほどの田舎です。あなたもここで、新しい生活、始めてみませんか？

- ①ひな婚（坂本おひな街道）
- ②坂本地区のみなさん
- ③田舎こんやく作り体験
- ④男の料理
- ⑤竹細工体験





# 歴史をたどる 文化をたどる

ふるさと勝浦の発祥については明らかではないが、先祖が暮らしてきた文化の証は、まちのいたる所に残っている。山深い里であったからこそ花開いた信仰の文化である。そして今でも勝浦のまちは四国八十八か所屈指の巨さつである鶴林寺を始めとする数々の信仰の場所が点在する里として多くの参拝者を集めている。それが白装束のお遍路さんであっても、ジーンズ姿の若者であっても、この地へ来れば、みんな仏の前で謙虚な自分に戻る。

**勝浦**町は阿波歴史の中心地であった国分・鳥坂・勝端・徳島とは山地によって隔てられている関係上、阿波史の舞台となった史跡は少なく、わずかな史跡があったとしてもその跡もさだかではありません。しかし鶴林寺をはじめ幾多の名さつを擁するだけに、宗教上の霊地として伝承に富み、信仰の里として位置づけられていたことは確かかなようです。特に真言密教の修行の地としては鶴林寺のような人跡絶えたこの境地在法理を体得するにはまことに適地であったのでしよう。山深い里であつたればこそ、信仰を持つ人々の心をとらえ、仏教史上数々の貴重な文化財、すなわち仏像・仏画・仏具・仏典および寺院建築を残し得たと思われまふ。徳島県の文化財を論ずる上では勝浦町を度外視することはできず、特に鶴林寺は文化財の宝庫と言われている。

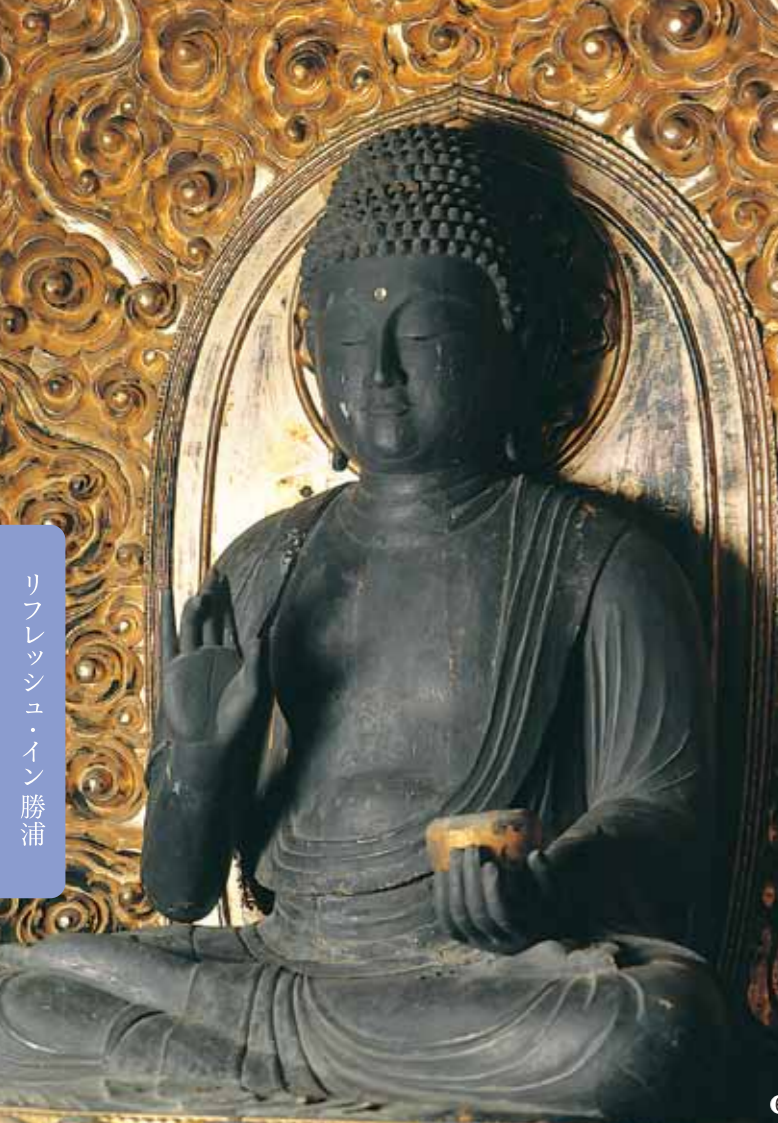
鶴林寺は霊鷲山宝珠院と号し、四国霊場第二十番札所として知られることは、雌雄の白鶴が本尊地藏大菩薩の降臨を守護したことから鶴林寺と名づけられたと言われています。参道からの距離を示した丁石や本堂、三重の塔、様々な仏画など数多くの文化財を残していますが、中でも国指定重要文化財に指定されている寺の本尊である「木造地藏菩薩立像」は温容華麗な面相で、

浅い彫りの、しかも衣文の丸みがかつた姿は、藤原期彫刻の面目を具現している名品とされています。昔から朝野の信仰を集めており、義経記の屋島の合戦のくだりにその名が出てくるほか、頼朝がある夜鶴林寺の尊像が鎌倉にご来臨あつたことを夢に見、宝物と三千貫の寺領を寄進したという伝承や、伊勢神宮の神官が阿波への渡航中、難破しそうになつたのを鶴林寺の尊像に助けられ



大な手洗鉢を寄進し子々孫々その名に鶴の一字を付けたなど、さまざまな伝承が残っています。その他星の岩屋や仏石山の伝説など、勝浦町には町のいたるところに、様々ないわれや伝承を残す場所が残っており、数多の寺社に様々な文化財が保存されています。国指定・県指定のものも多く、いずれ指定されるべき価値を蔵するものも少なくありません。信仰の里として先人たちが残してくれた貴重な財産を、次代へ大切に継承することが今の私たちに課された重大な使命であることを感ぜずにはいられません。

- ① 地藏菩薩半伽像(長福寺)
- ② 版本大般若経(妙音寺)
- ③ 格天井(妙音寺)
- ④ 絹本着色釈迦三尊画像(鶴林寺)
- ⑤ 木造地藏菩薩立像(鶴林寺)
- ⑥ 薬師如来座像(長福寺)
- ⑦ 鶴林寺本堂



リフレッシュ・イン 勝浦



# 勝浦町 観光MAP



青空のもと  
出かけてみよう。

## 勝浦町を探索してみよう!

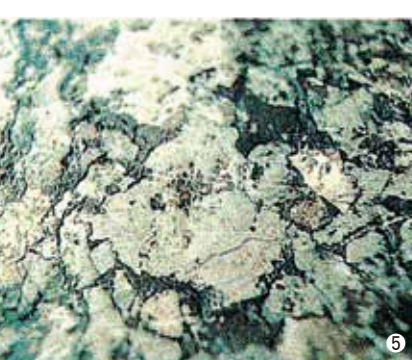


- 主な行事予定
- 1月 成人式  
消防出初式  
文化祭
  - 2月 元祖ビッグひな祭り  
坂本おひな街道  
おひな様の奥座敷
  - 3月 あめぐ解禁  
芸能大会
  - 4月 勝浦さくら祭り  
芸能大会
  - 5月 武者人形祭り
  - 6月 鮎漁解禁
  - 7月 鮎網漁解禁
  - 9月 防災訓練  
勝浦町秋祭り
  - 10月 みかん狩り  
健康福祉まつり

勝浦町は四方をなだらかな山々に囲まれた緑豊かな山里です。この豊かな自然の中に、全国的にも数少ない複雑な地層と、日本の基盤とも言われる古い岩石、珍しい植物などの自然と、信仰にまつわる貴重な文化財が数多く残されています。心をちよっと休めたくなったら、寄ってみてください。素朴なものしかないけれど、きつと心にしみる何かを発見できると思います。



リフレッシュイン勝浦



①鳥居ケヤキ  
②コスモス  
③恐竜の里  
④立川溪谷  
⑤立川のシルリア紀石灰岩



# 山村に根づいた俳諧文学

勝浦の地は昔から生活に即した短詩形の文学、すなわち短歌、俳句、川柳などが盛んで、そのための結社さえ存在する。古くから神社の掲額に俳句、川柳など、地域住民の自作を並べて奉納する習慣があり、偲んでいることから、この郷土にそれら文化を育む土壌があることが分かる。文芸は生活の中から生まれる。そして今でも生活の臭いをする佳句秀歌が、多くの一般の人々によって、生み出されている。

今でも県の芸術祭で多くの受賞者を出す俳句のまち勝浦。

勝浦町は昔から俳句愛好者が多く、徳島県の芸術祭文芸部門などで最優秀賞・優秀賞などを獲得する人も多くいます。趣味的教養としての俳句がこの地に根づいたのは江戸時代末期と思われるが、そのまま一部の人々に継承され、明治期以後教育が普及するにつれて、愛好者も増加しました。勝浦町は横瀬町と生比奈村が合併してできた町ですが、その横瀬町の俳句界で主導的役割を果たしたのが五柳斎緑雨を中心とする俳句結社「柳林社」です。緑雨の代表作は「かす

旧生比奈村が輩出した優れた人材たち。

それに比して生比奈村では「桂川社」と「愛文社」の活動が目立ちます。桂川社は明治の末期、沼江に発祥した俳句同人の結社で、藤本春梅が主幹となったときひとつの隆盛期を築きました。春梅は十六歳で上京し、伯父の世話になりながら正岡子規に師事すること八年、家業を継ぐために帰郷後、幸喜園春梅と号し、後輩の指導につとめました。その名声は高く、後年徳島県俳壇の巨星と称えられるに至っています。代表作は「型だけで終わる生比奈の夕立かな」。

なります。優れた指導者の下に後継者を輩出せしめ、あるいは指導者が長命して熱心に指導した結果がこの差になったと言えるでしょう。生比奈村内に俳聖芭蕉の追悼碑が三基も建立されていることから、この村でいかに俳句が盛んだったかが偲ばれます。昭和四十三年にはこれらの結社が大同団結して「勝浦俳壇」を結成し、現在も、即吟会その他の行事を大々的に催しています。

型だけで終わる生比奈の夕立かな



みたる外れを風の光かなで、妙音寺境内に句碑として残されています。緑雨死後柳林社は自然消滅しましたが、その後柳林社同人が中心に各地の愛好者が集まり、「柳葉社」「橋影吟社」「敷島吟社」などの結社が誕生しました。俳句を友とする趣味的語らいがしばらく続きましたが、各吟社ともにもその中心人物が死没したり何らかの理由で手を引いたりすると、自然消滅するものも多かったようです。



う俳誌を刊行するほどに成長しました。輝岳の句碑は生比奈村の様々な場所に見受けられます。このように生比奈村では藤本春梅の主宰する桂川社、倉橋輝岳が種を蒔いた愛文社は、共に後継者に人を得て、大きく成長し、生比奈村の俳壇は、徳島県でも第一流の地位に立ちました。この点横瀬町の俳句界が泡沫のごとく生まれては消え、消えては生まれた偶発的なものであったのとは大いに異





# 勝浦のあゆみ

生きることに、それはいつの時代も大変なことかも知れない。だが、このまちで生きるために、このまちを少しでも良くするために歯を食いしばって頑張ってくれた先人たちの足跡を知るたびに、今の我々がいかに恵まれているかを思い知ることがある。ただ、感謝しなければ、という、謙虚な想いが脳裏をよぎると同時に、この素晴らしいまちを守つていかなければ、という、新たな決意がみなぎってくる。



- 昭和三十九年
  - 地方財政再建完了
  - 坂本・与川内・横瀬農業協同組合が合併し勝浦町農業協同組合誕生
  - 保健衛生優良団体として自治大臣表彰を受ける
- 昭和三十八年
  - 公平委員会事務を県人事委員会に委託
  - 中田森蔵氏二期目町長に当選
  - 第四回町議会議員選挙執行(定数二十人)
- 昭和三十七年
  - 消防団組織改革(団員数二百十二人)
  - 大雪により果樹・農作物の被害甚大
  - 勝浦中学校校舎完成、東・西校舎廃止
  - 横瀬小学校立川分校を廃止
  - 勝浦中学校東校舎跡へ生比奈小学校移転
- 昭和三十四年
  - 勝浦会館完成、川北保育所廃止
  - 消防団組織改革(団員数二百四十人)消防機動隊を設置
- 昭和三十五年
  - 勝浦町役場新庁舎完成
  - 阿波勝浦電報電話局開局
  - 住民福祉センター完成
- 昭和三十六年
  - 横瀬・生比奈の戦没者慰霊碑を合し、役場敷地内に忠魂殿を設置
  - 三代目町長に堺福氏当選
  - 第五回町議会議員選挙執行(定数十八人)
- 昭和三十七年
  - 農業センター完成
  - 小松島勝浦地区隔離病舎組合設立
  - 名譽町民朝桐猪平氏死去、町葬執行
- 昭和三十九年
  - 一万トンジュース工場完成
- 昭和五十年
  - 町村合併二十周年記念式を挙行
  - 堺福氏二期目町長に当選
  - 第六回町議会議員選挙執行(定数十八人)



- 昭和五十二年
  - 小松島市ほか三町村衛生組合し尿処理場「しんぎ浄園」完成
  - 県営正木ダム完成
  - 県営勝浦発電所完成
  - 堺福氏健康すくれず町長辞職
- 昭和五十三年
  - 四代目町長に桜木義夫氏当選
  - 県道徳島上那賀線生名バイパス供用開始
  - 沼江保育所改築完成
- 昭和五十四年
  - 第七回町議会議員選挙執行(定数十八人)
  - 坂本小学校改築完成(坂本幼稚園併設)
- 昭和五十六年
  - 異常低温(最低マイナス十二℃)が続き果樹(かんきつ類)の被害甚大
  - 勝浦中央橋完成
  - 勝浦病院移転改築完成
- 昭和五十七年
  - 救急患者輸送を業者委託により業務開始
  - 桜木義夫氏二期目町長に当選
  - 町議会議員補欠選挙執行
  - 教育集会所完成●農村婦人の家完成
  - 県道徳島上那賀線三深バイパス開通
  - 市の江中央橋完成
- 昭和五十八年
  - 勝浦町農村労働福祉センター完成
  - 第八回町議会議員選挙執行(定数十八人)
- 昭和五十九年
  - 長者が原高冷地野菜団地完成
  - 生比奈小学校改築完成
  - 勝浦貯蔵みかんの愛称「味出番」に決定
- 昭和六十年
  - 第一回あゆみつり●県営婆羅尾林道完成
  - 町の花「コスモス」町の木「みかん」決定

- 昭和三十年
  - 横瀬町生比奈村の合併により勝浦町誕生
  - 初代町長に朝桐猪平氏当選
  - 第二回町議会議員選挙執行(定数二十八人)
  - 坂本幼稚園開設●横瀬保育所開設
- 昭和三十一年
  - 地方財政再建団体の指定を受ける
  - 横瀬・生比奈商工会が合併し勝浦町商工会誕生
  - 沼江保育所開設●勝浦広報創刊号発刊
- 昭和三十二年
  - 横瀬・生比奈消防団を改組し勝浦町消防団とする(団員数四百六十六人)
- 昭和三十三年
  - 第二回町民体育祭開催
- 昭和三十四年
  - 二代目町長に中田森蔵氏当選
  - 坂本川付け替え事業完了
  - 勝浦町役場飯庁舎完成
  - 勝浦町生比奈支所廃止
  - 第二回町議会議員選挙執行(定数二十人)
  - 勝浦町社会福祉協議会設立(昭和四十二年四月日社会福祉法人となる)
- 昭和三十五年
  - 横瀬・生比奈森林組合が合併し勝浦町森林組合誕生
- 昭和三十七年
  - 社会体育館完成
- 昭和三十八年
  - 中田森蔵氏二期目町長に当選
  - 第三回町議会議員選挙執行(定数二十人)
- 昭和三十九年
  - 県立勝浦園芸高等学校開校
- 昭和四十年
  - 学校給食センター完成、学校完全給食開始
  - 横瀬・生比奈中学校を統合し、勝浦中学校とする
  - 町村合併十周年記念式を挙行



昭和六十一年

- 掛谷集会所完成
- 東部広域農道着工●横瀬集会所完成

昭和六十二年

- 坂本旭住宅完成
- 第九回町議会議員選挙執行(定数十六人)

昭和六十三年

- 県営かん排施設通水
- 坂本小学校プール落成

平成元年

- 石原集会所完成
- 勝浦町新総合振興計画策定
- 中山住宅完成
- ふるさと創生事業「勝浦川を町の宝に」
- 前川キャンプ場完成
- 勝浦町婦人会全国花いっぱいコンクール
- 勝浦町農村環境改善センターオープン
- 坂本バイパス開通

平成二年

- 久国集会所完成●過疎地域に指定
- 勝浦町立図書館オープン
- 勝浦町婦人会全国花いっぱいコンクール
- 内閣総理大臣賞受賞
- 勝浦町農村環境改善センターオープン
- 坂本バイパス開通

平成三年

- 生比奈小学校体育館完成
- 第十回町議会議員選挙執行(定数十六人)
- 石原住宅完成●沼江バイパス起工

平成四年

- 特別養護老人ホーム喜楽苑オープン
- 今山公衆トイレ完成
- デイサービスセンターオレンジ荘オープン
- 中山集会所完成●第二回みかん祭り

平成五年

- 今山ふれあい交流館落成
- 徳島医療福祉専門学校開校
- 沼江コミュニティセンター落成
- 南岸農免道着工●星谷運動公園完成
- 勝浦町フリーセンター完成
- 第四十八回国民体育大会(東四国団体)
- ライフル射撃競技・デモスポ行事(家庭婦人バレーボール)

平成十三年

- 沼江保育所休園 生比奈保育所へ統合
- 第四十七回全国みかんまつり大会開催地

平成十四年

- 川口幸氏三期目町長に当選
- ふれあいの里こかもとオープン
- 勝浦川那賀川流域間市四町合併協議会発足
- 新今山橋開通

平成十五年

- 徳島医療福祉専門学校体育館落成
- 勝浦川・那賀川流域間市四町合併協議会解散
- 第十三回町議会選挙(定員十二人)
- 子育て支援センター開設
- 地域共同作業所「サルビア」作業所開設
- 全国勝浦ネットワーク友好都市盟約書締結

平成十七年

- 今山堰改修工事完成
- 小松島市・勝浦町合併協議会設立
- 小松島市・勝浦町合併協議会設立
- 小松島市・勝浦町合併協議会設立
- 人形文化交流館オープン
- 勝浦町制五十周年記念式典挙行
- 県営基幹推理施設ろ過池洗浄施設完成
- 小松島市・勝浦町合併協議会解散

平成十八年

- 六代目町長に中田丑五郎氏就任
- デジタル防災無線事業完成
- 情報通信基盤整備事業完成
- 地域包括支援センター開設

平成十九年

- ごみ焼却を小松島市に業務委託
- 第十四回町議会選挙(定数十人)
- 第二回全町二斉防災訓練
- 第二十二回国民文化祭開催(人形フェスティバルin勝浦)
- 優良施策団体として総務大臣表彰を受ける

平成二十年

- 地域ICT未来フェスタ二〇〇八inとくしま開催(サテライト会場)
- 自主防災組織率一〇〇%達成



S56.3.25 勝浦病院移転改築完成



H2.12.1 勝浦町農村環境改善センターオープン



H2.12.2 坂本バイパス開通



H14.5.13 新今山橋開通



H19.10.27 第22回国民文化祭開催



H4.4.1 特別養護老人ホーム喜楽苑オープン



H5.5.20 石原住宅完成



H23.3.12 道の駅「ひなの里かつうら」開駅



H24.3.11 沼江バイパス第二工区開通



H25.3.1 勝浦中学校新校舎落成

平成六年

- 五代目町長に川口幸一氏就任
- 横瀬保育所落成
- 県立勝浦園芸高等学校が県立勝浦高等学校に校名変更
- 勝浦町から坂電の化石が見つかる(四国初)
- 県道新浜勝浦線中山バイパス完成
- 近畿勝浦ふるさと会発足

平成七年

- 勝浦町合併四十周年記念式典挙行
- 勝浦町堆肥施設竣工
- 林道立川相生線工事初年度
- 第十二回町議会議員選挙(定数十六人)
- JAよつてネ市開業

平成八年

- 県道阿南勝浦線沼江バイパス二期工事開通
- 新神谷住宅完成●勝浦町畜産団地完工
- 横瀬集落排水処理施設稼働
- 横瀬協にシルバー人材センター開設
- 福祉センターにエレベーター設置
- 立川に山火事発生

平成九年

- 勝浦町民憲章制定
- 町学校給食センター改築完成
- 県道鶴林寺線供用開始
- 関東阿波かつうら会設立

平成十年

- 川口幸氏二期目町長に当選
- 生比奈保育所改築完成
- 県営畑地帯総合土地改良事業完了
- 星谷農免農道竣工●新横瀬橋完成
- 勝浦フライパークオープン

平成十一年

- 横瀬せせらぎ橋開通
- 坂本小学校・坂本幼稚園開校
- 坂本小学校が横瀬小学校に統合
- 第十二回町議会選挙(定数十四人)

平成十二年

- 学童クラブ発足●生きがいデイサービスセンター「みかんの郷」開設
- 小松島市外三町村衛生組合新し尿処理場「しらすぎ浄園」完成
- グループホーム「あゆの里」オープン

平成二十一年

- 勝浦病院 病院機能評価認定証取得
- 総合型地域スポーツクラブ「K.Friends」設立

平成二十二年

- 中田丑五郎氏二期目町長に当選
- 保育所が民間移管され勝浦こすもす保育園・勝浦みかん保育園が誕生
- よつてネ市リニューアルオープン
- 生名遍路道国指定史跡登録

平成二十三年

- 勝浦町総合計画策定
- 道の駅「ひなの里かつうら」開駅
- 定住自立圏形成協定を締結
- 棚野久国簡易水道浄水施設完成
- 第十五回町議会選挙(定数十人)
- 勝浦貯蔵みかん専用統一段階プール箱完成

平成二十四年

- 横瀬小学校耐震補強工事完成
- 沼江バイパス第二工区開通
- 県立勝浦高等学校が県立小松島西高等学校勝浦校に再編

平成二十五年

- 勝浦中学校新校舎落成
- 民間賃貸住宅建設費助成制度開始
- 木材利用優良施設として勝浦中学校が林野庁長官賞を受賞
- 勝浦中学校が二〇三年度グッドデザイン賞を受賞
- 勝浦町クリーンセンター解体撤去

平成二十六年

- 中田丑五郎氏三期目町長に当選
- 沼江・掛谷合簡易水道沼江地区配水池改築完成
- 消防救急デジタル無線事業完成
- 広域連携コンサート「みかんの香るまちの音楽会」開催
- 若者定住促進賃貸住宅完成

平成二十七年

- 坂本地区森本家住宅が国の登録有形文化財に登録
- 川北簡易水道施設今山地区完成



- ふれあいの里さかもとが農林水産大臣賞(むらづくり部門)を受賞
- リオデジャネイロオリンピックジャパンハウスにひな人形展示
- 二十二年ぶりに国内最古級となる竜脚類歯化石が見つかる
- 第三十回徳島県消防操法大会第三位入賞(消防団第二分団)
- 横瀬小学校バリアフリー改修等工事
- 恐竜化石(ティタノサウルス形類)発見

- 四国大学と包括連携協力に関する協定締結
- 勝浦町地域活性化センター(愛称・レウィタかつら)オープン
- 四国大学勝浦地区スーパーサテライトオフィス開所
- 勝浦町、上勝町、小松島市と小松島署、管内十三郵便局で高齢者見守りなど三者協定締結
- 「ふるさと住民登録制度創設
- 救急救命業務開始

- 七代目町長に野上武典氏就任
- 勝浦町消費者安全確保地域協議会設立
- 国内最古級の恐竜化石含有層が見つかる
- 国内最大級の竜脚類歯化石が見つかる
- 台湾・勝浦さくら祭り「花見ツアー」約二千名が来訪
- 香港大手旅行会社ツアーが「元祖阿波かつら」ビッグな祭り」に計十二回来訪
- 生比奈小学校校舎トイレ改修工事
- 生比奈小学校校舎空調設備工事
- 横瀬小学校校舎空調設備工事
- 勝浦中学校校舎が公共建築賞・優秀賞受賞(一般社団法人公共建築協会)

- 中四国初となる獣脚類肉食恐竜の脛骨等化石発見
- 県道阿南勝浦線沿江バイパス整備工事着手
- 生比奈小学校体育館非構造部材耐震化工事
- 恐竜化石本格調査開始(肉食恐竜化石発見)

勝浦は恐竜のふるさと

# 貴重な恐竜化石を次々発見!

中央構造線の南側では数少ない恐竜化石含有層(ボーンベッド)を有する勝浦町。今後さらに多くの化石が発見される可能性があり、新しい種類の恐竜「勝浦ザウルス」発見への夢も膨らみます。



2020.4.1  
CAY



**平** 成6年、四国で初めて勝浦町で鳥脚類の肉食恐竜イグアノドン類の歯の化石が発掘されました。それから22年たった平成28年、白亜紀前期の地層から国内最古級になる竜脚類の恐竜ティタノサウルス形類の歯の化石が見つかりました。歯は高さ2.3センチ、幅1センチという、スプーンのような形と大きさです。白亜紀竜脚類の化石としては、国内最古級とみられ、国内で最も南での発見なので、南方に生息していた恐竜の生態や移動ルートを知る上でも重要なものです。恐竜が生きていた時代、日本はアジア大陸と地続きでしたが、中央構造線より南の地域は海だった時期が長かったため、恐竜の化石が発掘されることは非常に珍しく、四国では勝浦町でしか見つかっていません。この2つの化石は、いずれも地層から抜け落ちた石に含まれていました。

**平** 成30年、31年には、徳島県立博物館が中心となつて、福井県立恐竜博物館及び県内の化石愛好家の方々の協力のもと、勝浦川支流沿いの地層の発掘調査が行われました。その結果、最大歯冠高さ3.8



- ①平成6年に見つかったイグアノドン類の歯(画像提供: 徳島県立博物館 山本匠さん画)
- ②平成28年に見つかった竜脚類ティタノサウルス形類の歯の化石(画像提供: 徳島県立博物館 山本匠さん画)
- ③竜脚類恐竜の歯の化石や獣脚類恐竜の脛骨の化石などが続々と発掘されています
- ④恐竜化石含有層(ボーンベッド)での発掘調査の様式

**勝** 浦町には、白亜紀前期の地層(物部川層群)が分布しており、恐竜の化石とともにカメやサメ、貝やカキの化石も見つかったことから、当時は河川の河口付近か汽水域・淡水と海水が混ざった干潟のような環境だったと推測されます。一連の発掘で、この地層がボーンベッドであることが分かったため、今後さらに多くの化石が発見される可能性が出てきました。新しい種類の恐竜、勝浦ザウルス、発見への夢も膨らみます。勝浦町は、今後県と協力して、化石調査と産地の保全に努めていきます。また、恐竜の化石発掘体験も開催しています。

## 新しい品種の桜が認定されました!



**勝浦雛桜**  
品種認定のきっかけと経緯

「勝浦雛桜」は東山倍彦会長が勝浦各所に咲いている桜の新品種可能性に気づき、千葉大学に鑑定を依頼したことから、品種認定への道が開けました。

平成二十九年、千葉大学園芸学研究所 中村教授にDNA鑑定を依頼し、同年五月と十月に新品種の可能性ありとの鑑定結果を得ました。

美しい桜であることからこの桜を普及させ、桜の名所づくりにすることを企画、同志を募って「勝浦雛桜の会」を結成し、桜を「勝浦雛桜」と命名しました。

平成三十年三月、公益財団法人 日本花の会に「勝浦雛桜」の品種認定を申請しました。

平成三十一年三月、日本花の会による桜の現地調査と同年五月の鑑定を経て、同年(元年)十一月一日に品種認定がなされました。

その間、徳島市内で植樹されていた「阿波雅桜」との類似性が指摘されたため、改めて千葉大学 中村教授にDNA鑑定を依頼し、令和元年七月異なる品種であるとの鑑定結果を得ました。

(引用元: 勝浦雛桜品種認定関係資料集) 発行: 勝浦雛桜の会







# 産業振興・社会基盤

- ◎農業振興
  - ・勝浦の特産品「熟成みかん」のブランド化を推進
  - ・六次産業化(生産から加工、販売までトータルに行う)へ向けて、みかんの原材料とした目玉商品の開発
  - ・地籍調査の推進

- ◎企業誘致
  - ・さまざまな形態の企業の誘致を推進
  - ・地域おこし協力隊員の町内定住や起業を支援

- ◎社会資本(道路・橋りょう・河川)
  - ・主要地方道徳島上那賀線の改良を推進
  - ・主要地方道阿南勝浦線の改良を推進
  - ・県道新浜勝浦線の改良を推進
  - ・町道の改良や維持補修を推進
  - ・橋梁の長寿命化や修繕を推進
  - ・河川改修や河道掘削を推進

- ◎農道・林道整備
  - ・徳島東部広域農道の整備を推進
  - ・勝浦南部農免農道の整備を推進
  - ・林道立川相生線の整備を推進

- ◎急傾斜地崩壊対策・砂防
  - ・桧淵急傾斜地崩壊対策事業を推進
  - ・前山谷砂防事業を推進

- ◎住宅
  - ・木造住宅の耐震化を推進
  - ・空き家対策を推進
  - ・宅地造成事業を推進



ちょぞつ娘

- ①道の駅情報館内
- ②軽トラ市
- ③かつら魅力市(千葉県勝浦市)
- ④県道阿南勝浦線「沼江バイパス」整備工事

# 教育・文化・子育て

- ◎学校教育
  - ・勝浦町ならではの特色ある学校教育
  - ・地域社会と連携した教育の推進
  - ・ICT設備の整備など、教育環境の向上
  - ・ALITサポート体制強化による英語教育の充実

- ◎生涯学習
  - ・学習・文化・スポーツ活動の活性化
  - ・人権教育の推進
  - ・青少年健全育成の推進

- ◎子育て
  - ・結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援の推進
  - ・待機児童ゼロの継続
  - ・保育士確保のため、給与への補助金制度を新設
  - ・3〜5歳児の副食費の無償化
  - ・「こども相談」「こどもすこやか相談」など、各種相談支援を実施

- ◎文化
  - ・阿波人形浄瑠璃の伝承
  - ・恐竜化石を核としたまちづくりの推進



- ①勝浦町立横瀬小学校
- ②オーブンスクール
- ③K-Friends
- ④勝浦町立生比奈小学校







①砂防堰堤（生名）  
②若者定住促進賃貸住宅  
③消防救急デジタル無線  
④高規格救急自動車



①はぐくみ  
②子ども交流支援センター  
③いきいき百歳体操  
④福祉ちゃん号

# 健康・福祉

◎高齢者支援  
・無料送迎の「お買い物バス」を運行  
・移動支援事業タクシー券の交付

◎介護予防事業の充実  
・認知症サポーター養成講座の開催  
・パワーアップ教室（運動器機能向上教室）の開催  
・「いきいき元気教室」（認知症予防教室）の開催  
・「いきいき百歳体操」の実施  
・「ぽかりんカフェ」（交流カフェ）の開催

◎障がい者福祉  
・障害福祉サービス、障害児通所支援サービス利用を推進  
・重度心身障がいのある方の医療費を助成  
・補装具（車椅子、補聴器など）の支給  
・自立支援（更生医療）の助成  
・手話通訳者・要約筆記奉仕員の派遣  
・移動支援事業（車両移送型）による送迎

◎医療・健康  
・がん検診の受診率向上を図り、精密検診未受診者をなくす取組を推進  
・対象者を明確にした生活習慣病予防対策を実施  
・愛育班と連携した健康づくりの推進  
・ライフスタイルに応じた食育の推進  
・勝浦病院の改築・周辺整備など医療環境の充実



# 環境保全・地域安全

◎環境保全  
・粗大ごみ回収の無料化  
・分別ステーションの設置  
・町内一斉清掃の実施  
・ごみ処理広域化の推進

◎上下水道  
・安全で安定した水道水の供給  
・計画的な簡易水道施設の更新  
・農業集落排水事業の安定した運営  
・合併浄化槽への転換を推進

◎地域安全  
・消防常備化の推進  
・消防団活動の充実  
・自主防災組織のサポート  
・全町一斉防災訓練の実施  
・「防災リーダー養成講座」（徳島大学主宰）の実施  
・ハザードマップの制作  
・春期、秋期交通安全キャンペーンの実施  
・警察、学校、行政による交通安全協議会の開催







# 観光・定住促進

## ◎観光

- ・町外への観光情報の発信(イベント参加やパンフレット配布など)
- ・インバウンド事業の推進(外国人観光客の受入れ、多言語パンフレットの作成など)
- ・「恐竜の化石発掘体験」の実施

## ◎交流促進

- ・道の駅「ひなの里かつら」事業の展開
- ・「ふるさと住民票」登録で、勝浦町のファンを増やす
- ・地域団体の行うイベントへの助成
- ・特産品の販売(町内外イベントへのブース出店など)
- ・四国大学(レヴィータかつら)内にスーパーサテライトオフィスとの連携事業の推進
- ・県外大学生の体験授業、インターンシップ受入の推進
- ・「全国勝浦ネットワーク」(本町、和歌山県那智勝浦町、千葉県勝浦市)によるPR活動

## ◎定住促進

- ・田舎暮らし体験施設「田舎トライアルハウス坂本家」をPR
- ・グリーンツーリズム(宿泊田舎体験、農業体験など)の推進
- ・民間住宅(指定物件)への家賃助成及びリフォーム助成の推進
- ・空き家バンクの運営



①インバウンド事業  
②田舎トライアルハウス坂本家  
③化石発掘体験イベント  
④勝浦町役場

# 議会

勝浦町議会では二〇一一年から議会改革について、検討を進めてきました。そのきっかけは十人まで減少させた議員定数です。これまで、所管課に対応した常任委員会を二つ置いてきましたが、各委員会の定数は五人、委員会での賛否は二対一となり、委員長裁決が行われることも少なくありませんでした。結局十人で分担しても、ということから、所属以外の議員も委員外議員として全員出席することが常態化し、これなら最初から本会議で全部やってしまったらどうか、となった訳です。

議員全員で議論したい。しかし本会議では議論ができない。委員会と同じ自由な議論を行いたい。法的な問題を解決し、少ない議員定数で充実した議論を行うためにと考えられたのが、通年の会期制(通称マラソン議会)の導入と本会議への回帰です。

まず、通年の会期制を導入することで、一年中いつでも会期となります。会期外という日はなくなります。第一読会では、議案の提案、説明、基本的な質疑が行われ、第二読会では、逐条審査や参考人招致、議長も含めて自由に発言できる「自由討議」制度を導入し、第三読会において、条文の整理確定、総括の質疑、討論、採決を行います。

本会議をどのように運用するかは、議会がそれぞれの会議規則や運用で自由に決めることができます。そもそも会議規則のために会議をしているわけではありませんから、人数にあわせて会議の仕方を効果的にするわけです。

二〇一三年七月十日からマラソン議会がスタートいたしました。今後も議会改革を進め、議会の活性化、町の発展へとつなげてまいります。